

## 「こまごました努力」に対する態度とその位置付け

ブルジョア的進歩の「こまごました努力」に満足することはできないということは、決して部分的改良の絶対的否定を意味するわけではない。マルクス主義者は、これらの方策の若干の（貧弱であるとはいえ）利益を、すなわち、それが勤労者にたいして、彼らの状態の若干の（貧弱であるとはいえ）改善をもたらしうることを、決して否定するものではない。それは、とくに立ちおくれた資本形態、すなわち高利貸や債務奴隷、等々の多くの死滅を促進し、それらがヨーロッパ資本主義なみの、より近代的で人間的な形態へ転化することを促進する。だからマルクス主義者は、もしこのような手段を採用すべきかどうかと質問されたならば、もちろん、すべきだとこたえるであろう。しかしこのばあい、一般にこれらの手段によって改善される資本主義体制にたいする自分の態度を明らかにするであろうし、——また、このばあい、この制度の発展を、したがって、その終末をはやめようという願望をもって、その承諾の理由とするであろう。

注)「こまごました努力」——その中身は、疑いもなく小生産者たちのもっとも身近な切実な要求についての

第一巻 ナロードニキ主義の経済学的内容 P393~394

## コメント

ブルジョア的改良は根本的解決ではないことを常に明らかにして、資本主義体制の廃止以外にその根本的解決はないことを表明し、そのため（根本的解決）力を尽くすこと。

また、「部分的改良」が、勤労者にたいして、彼らの状態の若干の改善をもたらしうるだけでなく資本主義の廃止を促進するが故にその意義を認めるということを私たちははっきりと認識しておく必要がある。